

巨匠への長い旅路を順調に歩む若手指揮者たち
——鈴木優人、オラリー・エルツ、コルネリウス・マイスター——

池田卓夫



鈴木優人
©Marco Borggreve



オラリー・エルツ
©Marco Borggreve



コルネリウス・マイスター
©Marco Borggreve

巨匠までの歩みを客席から同時体験、
変化率を買う楽しみ

昨年はエサ=ペッカ・サロネン、広上淳一、大友直人が、今年はクリスティアン・ティーレマン、アントニオ・パツパーノ、ファビオ・ルイジ、準・メルクルが、それぞれ還暦（60歳）に達した。現在56歳のNHK交響楽団首席指揮者パーヴォ・ヤルヴィが1995年、東京交響楽団へ客演するために初めて日本に現れたときは32歳。「一つの作品を何度も繰り返し演奏し、時間をかけて究めていくクラシック音楽の指揮者にとって、20～30代のマエストロはありえない。うちの父親（ネーメ・ヤルヴィ）だって、60歳を過ぎてようやく、味わいが出てきたところだよ」と、恐ろしいほど率直に語っていた。

パーヴォの発言は、二通りに読み直せる。ひとつは額面通り「指揮者は60歳からが勝負」の意味、もうひとつは「時間をかけて」がポイント。聴衆の側にも、ある若い指揮者のことを気に入ったら何度も繰り返し聴き、成長にリアルタイムで立ち会う喜びが用意されている。株式投資と同じく、新規公開株の「変化率を買う」楽しみといえる。

鈴木優人、オラリー・エルツ、コルネリウス・マイスターが
相次ぎ登壇

2019年4月の読売日本交響楽団（読響）には、鈴木優人（1981～）、オラリー・エルツ（1971～）、首席客演指揮者コルネリウス・マイスター（1980～）と、30～40代の活きのいい指揮者が入れ替わり立ち替わり現れる。それぞれの持ち味や活躍基盤は全く異なるので、最低でも誰か一人、マエストロ街道をともにできる「銘柄」が見つかるだろう。彼らの同世代は目下、世界のオーケストラから引っ張りだこの状態。1971年生まれでは日本でもおなじみのクリスティアン・アルミンクやダン・エッティンガー、作曲家だが指揮者&ピアニストとしても超一流のトーマス・アデスが目を引く。1981年生まれも大スターのグスターボ・ドゥダメルからヤクブ・フルシャ、ポーランドの女性指揮者マルゼナ・ディアクンまで多彩である。2歳年長には読響首席客演指揮者の山田和樹もいる。

「ミュージシャン・コンプレ=完全なる音楽家」の
道を歩む鈴木優人

鈴木優人は昨年、父の鈴木雅明の跡を継いでバツハ・コレギウム・ジャパン（BCJ）の首席指揮者に就いた。2013～15年には山田和樹の後任として、横浜シンフォニエッタの首席指揮者も務めた。ピリオド（作曲当時の仕様の）楽器とモダン（現代の仕様の）楽器の垣根、あるいは器楽と声楽の境をやすやすと乗り越え、14世紀のギヨーム・ド・マショーから作曲家としての自身の新作に至るまで、8世紀を往来する。検索サイトの肩書きは「指揮者、作曲家、ピアニスト、チェンバリスト、オルガニスト、演出家、プロデューサー」。地元の東京都調布市では調布国際音楽祭を立ち上げ、エグゼクティブ・プロデューサーを務める。日本人が何世代もの間、西洋音楽と向き合い、ついに現れたミュージシャン・コンプレ（完全なる音楽家）としての期待を一身に集める。

だが、本人はいたって淡々、どの仕事も実に楽しそうにこなす。人柄も人付き合いも良く、東京にいたとなかなか視界に入らないが、九州各地では学生やアマチュアのオーケストラの指導者として絶大な人気を誇り、よ

り若い世代との交流に心血を注ぐ。演奏の特徴を一言で述べれば、もちろん固定概念にはとらわれず、完成度よりも、それぞれの作品の「生まれたままの姿」をひたすら解明するプロセスに喜びを感じるタイプといえる。

ラモーやショパンは、むしろ「普通」。日本ではまだ評価の定まらないカール・フィリップ・エマヌエル (CPE) ・バッハ、第2次世界大戦中のナチス・ドイツ政権によるユダヤ人作曲家過小評価の後遺症から未だ回復途上にあるメンデルスゾーン、採用する版の問題が大きいストラヴィンスキーの〈ペトルーシュカ〉など、解釈や演奏法に議論の余地のある作品を好んで指揮し、現代に生き生きと蘇らせるのが、目下の鈴木の上だろう。

切れ味のいい棒さばき、鋭敏な耳を持つオラリー・エルツ

オラリー・エルツは父ネーメ、長男パーヴォ、次男クリスチャンと3人の指揮者を擁するヤルヴィ・ファミリーと同じバルト諸国の一角、エストニアの首都タリンで生まれた。エストニア国立アカデミーでエリ・クラスらに指揮を学んだほか、フィンランド・ヘルシンキのシベリウス・アカデミーではヨルマ・パヌラやサロネンの指導も受けた。エストニアとフィンランドは距離的にも文化的にも近く、国歌の旋律（フィンランディア讃歌）を共有する。筆者もヘルシンキ国立歌劇場で、クラスのオペラ指揮に接したことがある。エルツも2011～14年にヘルシンキ・フィルハーモニー管弦楽団の首席客演指揮者を務めるなど、フィンランドの音楽界と密接な関係を保ち、シベリウスを得意とする。

もう一つのスペシャリティは、同時代の音楽。自らアンサンブルNYVDを組織し、新作を恒常的に初演してきた。今回の客演でも首席客演指揮者を務めるフィンランドの室内管弦楽団キュミ・シンフォニエッタ、エストニア国立響と読響が共同で、エストニアの作曲家、エリッキ＝スヴェン・トゥール（1959～）に委嘱した新作の日本初演を予定する。トゥールはキング・クリムゾンやフランク・ザッパ、イエス、ジェネシスなどのプログレッシヴ・ロックに強い影響を受けたとされ、エルツの鋭敏な耳と精確な棒さばきが最も生きる場面になりそうだ。切れ味のいい音づくりはベートーヴェンやブラームスを指揮する際にも変わらず、オーケストラ楽員から

は「弾きやすい」と好評。読響とも3度目の共演だ。

カペルマイスターの王道をゆっくり、着実に歩む コルネリウス・マイスター

最後はマイスター。読響との初共演は2014年と比較的最近だが、26歳だった2006年に新国立劇場でベートーヴェン〈フィデリオ〉の再演を指揮するため初来日した時は、「あまりにも若い」と驚かれた。2010～18年にオーストリア放送協会（ORF）のウィーン放送交響楽団首席指揮者を務めていた期間にも2度、日本ツアーを行っている。

読響を初めて指揮した際のR.シュトラウス〈アルプス交響曲〉は、いささか荒削りだったものの、ドイツの後期ロマン派音楽のスタイルをきちんと踏まえ、筋の一本通った演奏だった。その第一印象は、2017年に3年契約で読響首席客演指揮者に就いて以降も基本的に変わらない。ドイツには「若いころ、鈍感に見えるくらいの方が後年、大きく育つ」といった意味の言い回しがあって、案外当を得ている。もはや不可能と思われた東西ドイツ統一を実現したヘルムート・コール元首相は、そうした人物だった。マイスターも小さな歌劇場から段階を踏んで



2018年6月19日《定期演奏会》より ©読響

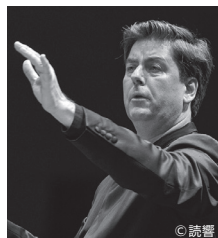
昨年秋、シルヴァン・カンブルランの後任としてバーデン＝ヴュルテンベルク州立シュトゥットガルト歌劇場音楽総監督（GMD）の地位まできた。放送オーケストラのシェフとして、膨大なレパートリーも蓄えた。

シュトゥットガルトでは、南西ドイツ放送交響楽団の首席指揮者にテオドール・クルレンツィス、シュトゥットガルト・フィルハーモニー管弦楽団の首席指揮者にエッティンガー^{てさわ}と手強いライヴァルがいる。オーケストラの定期演奏会では、マイスターを含めた3人が同じ会場（リーダーハレ）で手腕、音楽性を競い合う。こうした厳しい状況へ追い込まれたのを逆手にとり、マイスターもいよいよマエストロとして、大きく飛躍する時機に差しかったといえる。

〈いけだたくお・音楽ジャーナリスト@いけだたく本舗〉

5月公演…新常任指揮者ヴァイグレが登場！

新時代へ！第10代常任指揮者ヴァイグレの就任披露演奏会



5/14 火 第588回 定期演奏会
サントリーホール 19:00

指揮＝セバスティアン・ヴァイグレ（常任指揮者）

ヘンツェ：7つのボレロ

ブルックナー：交響曲 第9番

ドイツを代表する名匠ヴァイグレが振る《極上のブラームス》



5/18 土 第217回 土曜マチネーシリーズ
東京芸術劇場コンサートホール 14:00

5/19 日 第217回 日曜マチネーシリーズ
東京芸術劇場コンサートホール 14:00

指揮＝セバスティアン・ヴァイグレ（常任指揮者）

ピアノ＝岡田 奏

ロルツィング：歌劇《ロシア皇帝と船大工》序曲

モーツァルト：ピアノ協奏曲 第21番

ブラームス：交響曲 第4番

ヴァイグレが《英雄》を指揮し、チェロの新星ハーゲンが共演



5/24 金 第622回 名曲シリーズ
サントリーホール 19:00

5/26 日 第111回 みなとみらいホリデー名曲シリーズ
横浜みなとみらいホール 14:00

指揮＝セバスティアン・ヴァイグレ（常任指揮者）

チェロ＝ユリア・ハーゲン

ワーグナー：楽劇《ニュルンベルクのマイスタージンガー》
第1幕への前奏曲

シューマン：チェロ協奏曲

ベートーヴェン：交響曲 第3番《英雄》

5月公演の聴きどころ

いよいよ5月は、第10代常任指揮者に就任したドイツを代表する名匠セバスティアン・ヴァイグレと読響の新時代が開幕する。

5/14《定期》…就任披露演奏会となる14日は、ヴァイグレがヘンツェ作品とブルックナーの交響曲第9番でドイツ本流の手腕を発揮する。ヘンツェ《7つのボレロ》は、読響が2000年に行った欧州ツアーの一環として、スペインのカナリア諸島音楽祭で初演したゆかりの曲。メインのブルックナーの交響曲第9番は、作曲者の死によって未完に終わった、巨大な構想に基づく傑作交響曲だ。本格派ヴァイグレが、彼岸の響きに満たされた宇宙を築き上げる。

5/18、5/19《土日マチネー》…18、19日は、ヴァイグレがブラームスの交響曲第4番をメインとするプログラムを指揮する。第4番はブラームスが作曲した最後の交響曲で、温かな思いの中にどこか儚さを感じさせる美しい曲だ。古典的な様式とロマン主義が調和する円熟作で、ヴァイグレのタクトが作品の神髄に迫る。また、モーツァルトのピアノ協奏曲第21番では、パリで学びヨーロッパと日本で活躍する新鋭・岡田奏が共演する。数あるモーツァルト作品の中でも特に人気の高い傑作を、冷静で理知的な解釈で情感豊かに表現するだろう。

5/24《名曲》、5/26《みなとみらい》…24、26日は、ヴァイグレによるドイツ・プログラムをお届けする。メインのベートーヴェン《英雄》は、難聴に苦しみウィーン郊外のハイリゲンシュタットで遺書をしたためたベートーヴェンが、失意の底から這いあがった後に書き上げた交響曲。ドイツ音楽に長けているヴァイグレが、この曲の構築性と感情表現を絶妙なバランスで響かせる。シューマンのチェロ協奏曲では、名チェリストのクレメンス^はを父とするユリア・ハーゲンが、父親ゆずりの才能を開花させる。また、冒頭はヴァイグレ得意のワーグナー作品で、オペラで培われた劇的な表現を聴かせるだろう。

いずれも新常任指揮者の魅力を味わうにふさわしいプログラム。ぜひ会場で生演奏をお楽しみいただきたい。
(文責：事務局)

山田和樹が『ゴジラ』のテーマやロシアの隠れた名曲を指揮



6/13 木 第589回 定期演奏会
サントリーホール 19:00

指揮＝山田和樹(首席客演指揮者)
ソプラノ＝アルビナ・シャギムラトヴァ
伊福部 昭：SF交響ファンタジー 第1番
グリエール：コロラトゥーラ・ソプラノのための協奏曲
カリニコフ：交響曲 第1番

もっと知られるべき傑作！小林が熱望したフランクの交響曲



6/18 火 第623回 名曲シリーズ
サントリーホール 19:00

指揮＝小林研一郎(特別客演指揮者)
ヴァイオリン＝キム・ボムソリ
ビゼー：歌劇〈カルメン〉組曲から
ブルッフ：ヴァイオリン協奏曲 第1番
フランク：交響曲

“カリスマ”大植が16年半ぶりに登場し、〈シェエラザード〉を披露



6/23 日 第112回 みなとみらいホリデー名曲シリーズ
横浜みなとみらいホール 14:00

指揮＝大植英次
ホルン＝日橋辰朗(読響首席ホルン奏者)
バーンスタイン：ディヴェルティメント
パウエル：ホルン協奏曲
リムスキー＝コルサコフ：交響組曲〈シェエラザード〉

お申し込み・お問い合わせ

読響チケットセンター 0570-00-4390 (10時～18時・年中無休) <https://yomikyo.or.jp/>

読響チケットWEB <http://yomikyo.pia.jp/>

インターネットで24時間いつでもお申し込みができ、ご自身で好みの座席をお選びいただけます。上記URLもしくはホームページのトップページ【読響チケットWEB】のボタンから、ぜひご利用ください。

※初回お申し込み時は利用登録(無料)が必要です。

小林が振る《情熱のドヴォルザーク》&クラリネットの名手が共演



7/6 土 第218回 土曜マチネシリーズ
東京芸術劇場コンサートホール 14:00

7/7 日 第218回 日曜マチネシリーズ
東京芸術劇場コンサートホール 14:00

指揮＝小林研一郎(特別客演指揮者)
クラリネット＝アンドレアス・オッテンザマー
ウェーバー：歌劇〈魔弾の射手〉序曲、クラリネット協奏曲 第1番
ドヴォルザーク：交響曲 第8番

ハンガリーの俊英ナナシと鬼才ピアニストのドゥバルグが初登場！



7/11 木 第590回 定期演奏会
サントリーホール 19:00

指揮＝ヘンリック・ナナシ ピアノ＝リュカ・ドゥバルグ
コダーイ：ガランタ舞曲
サン＝サーンス：ピアノ協奏曲 第5番〈エジプト風〉
バルトーク：管弦楽のための協奏曲

ソロ・ヴィオラの“ヤス”が読響メンバーと繰り広げる充実の室内楽



7/12 金 第22回 読響アンサンブル・シリーズ
よみうり大手町ホール 19:30 (プレ・トークあり)

《鈴木康浩プロデュースの室内楽》
ヴィオラ＝鈴木康浩(読響ソロ・ヴィオラ)
ルクレール：2つのヴィオラのためのソナタ 第4番
ヒンデミット：弦楽三重奏曲 第2番
ブラームス：弦楽五重奏曲 第2番

巨匠トーヴェイが〈惑星〉を振り、ドゥバルグがラフマニノフを弾く！



7/15 月・祝 第113回 みなとみらいホリデー名曲シリーズ
横浜みなとみらいホール 14:00

7/16 火 第624回 名曲シリーズ
サントリーホール 19:00

7/17 水 第23回 大阪定期演奏会
フェスティバルホール 19:00

指揮＝ブラムウェル・トーヴェイ ピアノ＝リュカ・ドゥバルグ
女声合唱＝昭和音楽大学
ラフマニノフ：ピアノ協奏曲 第2番 ホルスト：組曲〈惑星〉

■東京・春・音楽祭 2019 The 15th Anniversary Gala Concert

4/12 18:30
金 東京文化会館

指揮=フィリップ・オーガン

ソプラノ=ミーガン・ミラー メゾ・ソプラノ=エリーザベト・クールマン

テノール=ペーター・ザイフェルト バリトン=ジョン・ルンドグレン

バス=アイン・アンガー

チャイコフスキー: 歌劇〈エフゲニー・オネーギン〉より

R. シュトラウス: 歌劇〈エレクトラ〉より

ワーグナー: 舞台祝祭劇〈ニーベルングの指環〉より ほか

[料金] S ¥16,000 A ¥12,900 B ¥9,800 C ¥6,700 D ¥4,600 E ¥3,600 U-25 ¥2,100

[お問い合わせ] 東京・春・音楽祭チケットサービス

03-6743-1398 (平日10~18時/土日祝を除く)

■やまと極上の響シリーズ

4/21 14:00
日 大和市文化創造拠点シリウス 芸術文化ホール

指揮=井上道義 ヴァイオリン=神尾真由子

モーツァルト: 歌劇〈ドン・ジョヴァンニ〉序曲

パガニーニ: ヴァイオリン協奏曲 第1番

ストラヴィンスキー: バレエ組曲〈火の鳥〉(1945年版)

[料金] S ¥6,000 A ¥5,000 学生(26歳未満): 各席種半額

[お問い合わせ] やまと芸術文化ホール チケットデスク

046-263-3806 (9:00~20:00/休館日を除く)

■TACT FESTIVAL 2019

マサト先生のミュージック・エデュケーション・プログラム

5/5 14:00
日・祝 東京芸術劇場コンサートホール

指揮・解説=鈴木優人(マサト先生) 語り=温水洋一

久石譲: オーケストラストーリーズ「となりのトトロ」

ライヒ: オーケストラのための3つの楽章

ラヴェル: ボレロ

[料金] 一般 ¥3,500 高校生以下 ¥1,000

[お問い合わせ] 東京芸術劇場ボックスオフィス

0570-010-296 (休館日を除く10~19時)